

どうする日本 ■今、自分事として私たちが考え、成すべき、向かうべき方向は■ どうする奈良

企業の価値創造

大切な誰かを守り続けるには、成長と進化が必要



五條メディカル株式会社
代表取締役社長

原田 杏子氏

原田 杏子 (はらだ・きょうこ)

別企業の勤務を経て、先代より父が承継した五條運輸副社長就任(2018年)。コロナ禍真っ只中の2020年、「大切な誰かを守る」を理念に五條運輸で培った物流ノウハウを、医療・医薬品輸送に特化、超低温で輸送する五條メディカルを起業。コロナウイルスワクチンの輸送に奮闘。現在は高度生殖医療に必須の卵子や受精卵、再生医療における細胞等凍結保存、液体窒素による超低温管理他、先進医療に必須の領域に事業を拡大。

要です。それらを担う人材が育つ環境と仕組みをいかに築くかが大切。その肝は、感情に任せず丁寧に伝える努力も、要素の一つなのかな。

やみくもに叱るのではなく、こちらの真意を伝え、相手が答えやすい環境、雰囲気をつくることも大切。これは会社創ることも同じ。これは会社経営も子育ても同じように思うのです。ただし、そこには相手本気で思っている心、成長と進化を共に進めようという魂が必要です。当社は、対話型社員(個人を認め合う)の醸成を目指しています。摩擦は進歩の母ともいいますが、あとで後悔するのなら今真実に伝えるべきを伝えることが必要です。例えばボロカスに言われたとしても、全ての事象は心の置き所(受け止め方)で変わっていくのです。

加えて「健康経営優良法人2025(フライト500)」に3年連続で選出されました。今

その準備としてコールドサプライチェーンへの安心安全、従業員の教育、仕組みづくりに取り組んでいます。

五條メディカルは単なる物流企業ではなく、「生命の可能性を守るヘルスケアインフラ企業」です。超低温技術を核に、再生医療・生殖医療分野の発展を支え、少子高齢化という日本社会の課題解決に貢献します。

女性起業家を顕彰し広く発信する第13回京都女性起業家賞の受賞者表彰で優秀賞に選ばれた五條メディカル。超低温マイナス196℃から常温まで、医療・医薬品特化型の低温物流を軸に事業を展開する同社のテーマは、「超低温物流が築く未来への希望」。液体窒素等を用いた超低温対応のコールドサプライチェーンの構築、先進医療の研究で必要とされる細胞等の長期保存・輸送などの取り組みを、将来京都を含む県外にも拠点を広げ事業展開を描くとの構想だ。同社の「大切な誰かを守る」とのミッションに対し、超高齢社会化、健康担保との課題解決には新たな価値創造が必要。同社の原田杏子代表取締役は企業の持続化と進化、価値創造への考え方を伺った。

送技術をベースに、世界で1人の人が悩む不妊治療に対する高度生殖医療に欠かせない卵子・受精卵、卵巣組織、精子の凍結保存、再生医療における細胞や組織の機能を一時停止し、将来必要に応じて用いるための長期間保存状態を維持する液体窒素等超低温管理、医薬品・試

目は多い時だと一日に3桁にも及びます。内省ですらマイナースの感情を味わい尽くすことにもなるのですが、一つ一つ丁寧に自分を見つめ、向き合うことで、一定期間を超えてマイナースの感情がワークと挑戦へと変わってくるのです。

例えば、テストを受ける際に

は成長、進化、社員の仕事への充実感、心身の健康は必須であり、その意味で健康経営は成長、価値創造への「要」とも言えるように思っています。

原田 私の場合、「大切な誰かを守る」との自らの使命と起業した目的が合致しています。だから事業自体は理想の実現と社会課題の解決、貢献への手段です。そのために今必要なことは圧倒的な事業成長とその進化への会社の基盤整備です。その根底には、子供を授かった時に感じた「心底守りたい」との絶対に譲れない思いがあり、だから課題に向き合い、諦めない。

自我を優先すると儲け優先になり、理想や貢献への進化を阻む。「大切な誰かを守る」一そのために社会の課題に挑戦することが生れ、経済や社会がまわっている。その実現にふれることのない、命の誕生、命を育む医療・医薬品の安心で安全な物流を通じて、それぞれの大切な人、生命、想いを守る一との深き思いを抱き、誰にも不幸をしわ寄せせず、次代に価値ある有意で圧倒的な存在を目指して参ります。

社会の課題解決と 価値創造は表裏



長へ「2025年度FAST AR」支援先企業に採択

原田 私たち五條メディカルは、コロナ禍の5年前「大切な誰かを守るために」との理念を基に会社を立ち上げました。世の中の足らざるは何か。「大切な誰かを守る」ということ。今私たちにできることは考えた時、高齢化へ向かう日本の未来に健康な高齢者の姿を想像し、再生医療に対応する安心安全な低温物流のスキームを描き、システムを確立しました。そこに、未知のウイルスに対してワクチンを持つ人たちに、新たな技術を用いた超低温かつ最適な温度管理による輸送・保管といった流通システムを活かし、提供することが通うと考え、最初に描いた再生医療へのスキームを、「大切な誰かを守る」理念を全うするための対応へと切り替えました。

送・管理 社会課題解決と価値創造は表裏

原田 今後、超低温による輸

内省期間から生まれる進化

原田 私は時折事業に対して自身の中で「本当に全力で死に物狂いで対応できているのか?」足りない要素は何か。後悔はないか?と問いつけ、内省します。先述した通り、見たい未来、そのために求められているものは頭に描けています。その実現に全力で取り組んでいるのか、進むべき方向性は合っているのか、もう一人の自分が自分を俯瞰し、顧みるのです。そのやり取りを日記に書き留めるのですが、内省期間中の日記の項

全ての事象は心の置き所で変わる

原田 先ほど、儲けありきではなく、事業に取り組める感謝と、感謝を収益を通じて社会に還元するために、圧倒的な事業の拡大といった、将来あるべき姿が少しずつ進化しているとお話ししましたが、その根幹は良い商品(サービス)を生み出し、提供し、個人が成長することと会社も成長し、ゆえに社会に貢献するサイクルの構築が必

の時代は、皆忙しすぎて振り返りたくても振り返れず、立ち止まりたくても立ち止まれない環境にあります。しかし、会社の成長には、社員が会社の仕事を面白いと感じなければ、企業の強さも、優しさも生まれず、発展的な思考や働く意欲が衰退、進化を阻みます。会社の持続的

り組んでいることです。いい会社にするために本気は必要ですが、必要以上に自らの価値観を押し付けるのではなく、会社をよくするための「自我」より「利他」が必要とも感じています。

経営者として、皆がハッピーになる会社を築きたい。要は隣人を輝かせるということ。圧倒的な事業成長のためには皆が輝かなければ実現はないし、会社の成長もなく、社会への貢献も程遠くなってしまう。子供たちに会話を宇宙船地球号のお話、命の誕生には意味があり、あなたには何らかの役割がある。「大切な誰かを守るため」それぞれがお互いの役割を理解し、自我より利他を尊重し輝かせることで、いい会社へと昇華する。そこに進化し、成長を遂げるか。

企業の持続化と圧倒的な成長へ「2025年度FAST AR」支援先企業に採択

原田 私たち五條メディカルは、コロナ禍の5年前「大切な誰かを守るために」との理念を基に会社を立ち上げました。世の中の足らざるは何か。「大切な誰かを守る」ということ。今私たちにできることは考えた時、高齢化へ向かう日本の未来に健康な高齢者の姿を想像し、再生医療に対応する安心安全な低温物流のスキームを描き、システムを確立しました。そこに、未知のウイルスに対してワクチンを持つ人たちに、新たな技術を用いた超低温かつ最適な温度管理による輸送・保管といった流通システムを活かし、提供することが通うと考え、最初に描いた再生医療へのスキームを、「大切な誰かを守る」理念を全うするための対応へと切り替えました。

送・管理 社会課題解決と価値創造は表裏

原田 今後、超低温による輸

内省期間から生まれる進化

原田 私は時折事業に対して自身の中で「本当に全力で死に物狂いで対応できているのか?」足りない要素は何か。後悔はないか?と問いつけ、内省します。先述した通り、見たい未来、そのために求められているものは頭に描けています。その実現に全力で取り組んでいるのか、進むべき方向性は合っているのか、もう一人の自分が自分を俯瞰し、顧みるのです。そのやり取りを日記に書き留めるのですが、内省期間中の日記の項

全ての事象は心の置き所で変わる

原田 先ほど、儲けありきではなく、事業に取り組める感謝と、感謝を収益を通じて社会に還元するために、圧倒的な事業の拡大といった、将来あるべき姿が少しずつ進化しているとお話ししましたが、その根幹は良い商品(サービス)を生み出し、提供し、個人が成長することと会社も成長し、ゆえに社会に貢献するサイクルの構築が必

の時代は、皆忙しすぎて振り返りたくても振り返れず、立ち止まりたくても立ち止まれない環境にあります。しかし、会社の成長には、社員が会社の仕事を面白いと感じなければ、企業の強さも、優しさも生まれず、発展的な思考や働く意欲が衰退、進化を阻みます。会社の持続的

り組んでいることです。いい会社にするために本気は必要ですが、必要以上に自らの価値観を押し付けるのではなく、会社をよくするための「自我」より「利他」が必要とも感じています。

経営者として、皆がハッピーになる会社を築きたい。要は隣人を輝かせるということ。圧倒的な事業成長のためには皆が輝かなければ実現はないし、会社の成長もなく、社会への貢献も程遠くなってしまう。子供たちに会話を宇宙船地球号のお話、命の誕生には意味があり、あなたには何らかの役割がある。「大切な誰かを守るため」それぞれがお互いの役割を理解し、自我より利他を尊重し輝かせることで、いい会社へと昇華する。そこに進化し、成長を遂げるか。

女性起業家を顕彰し広く発信する第13回京都女性起業家賞の受賞者表彰で優秀賞に選ばれた五條メディカル。超低温マイナス196℃から常温まで、医療・医薬品特化型の低温物流を軸に事業を展開する同社のテーマは、「超低温物流が築く未来への希望」。液体窒素等を用いた超低温対応のコールドサプライチェーンの構築、先進医療の研究で必要とされる細胞等の長期保存・輸送などの取り組みを、将来京都を含む県外にも拠点を広げ事業展開を描くとの構想だ。同社の「大切な誰かを守る」とのミッションに対し、超高齢社会化、健康担保との課題解決には新たな価値創造が必要。同社の原田杏子代表取締役は企業の持続化と進化、価値創造への考え方を伺った。

薬輸送・保管技術等は、超高齢社会における健康維持、先進医療に必須の分野。生命の可能性を広げ、未来の健康を支える企業を目指す当社としては、高度な専門性と安全性の基盤確立で、社会課題の解決に挑戦、経済の好循環に尽くしながら「大切な誰かを守る」とのスケール化と価値創造を描いています。裏返せば、社会の課題解決や要請にこたえること価値創造は一体であり、その実現に求められる要素は「進化」だと思っています。

100点を目指します。その目標、未来のためにやるべきことがしっかりできているか、漏れや油断はないかと自問し、見返すのと同じ感覚です。テストに備える期間は大変で、苦しいこともありますが、そう、今できる精一杯でやり切ることで、パッと目の前が開け、不安でも前に一歩を踏み出す感覚です。これはヒトが生きている証であり、価値だと思つ、いい意味でのエリート感覚。まさに「進化」であり、今求められている人材に必要な要素なのかとも思っています。諦めずにより尽くす

第13回 京都女性起業家賞授賞式



第13回京都女性起業家賞(アントレプレナー部門)で京都府知事賞(優秀賞)受賞した原田杏子社長